

第3期松江市スポーツ推進計画の策定に向けたヒアリング実施報告

1. 実施日程

令和7年1月 6 日(月)～15 日(木)

2. ヒアリング先

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| (1) NPO 法人 SPORTIVO ひがしいずも | (総合型地域スポーツクラブ) |
| (2) 有限会社 Plus value | (イベント企画運営会社) |
| (3) 木村崇男氏 | (フリーランススポーツインストラクター) |
| (4) 幼保園のぎ／たまちこども園 | (幼稚園・保育所) |

3. ヒアリングの内容

第3期スポーツ推進計画策定に向け、有識者より専門的な知見からご意見を伺った。

4. 主なご意見

- ・ こどもはスポーツに楽しみ志向を持つ傾向にある一方で、保護者は競技志向でこどもにスポーツをさせていることが多く、楽しみ志向と競技志向でスポーツに対する考え方の二極化が進んでいる。
- ・ 屋根付きの屋外広場を作ると天候に左右されず、幅広い年代の市民が様々なスポーツを行うことができ、スポーツの推進につながるだろう。
- ・ 少人数・小規模で大会をシリーズ化するなどして大会の頻度を増やして、競技というよりはロケーション重視の生涯スポーツユーザーを引き込めるような大会を主催していきたい。
- ・ スポーツへの参加の仕方も、アプリなどの登場で非常に多様化してきているため、時代の流れに合わせた工夫を施した大会にすることが重要である。
- ・ 松江の強みの一つとして宍道湖や中海、大橋川、境水道などの絶好のロケーションがあげられるので、県外の参加者を誘致することにあたっては、ロケーションを生かした大会づくりが重要である。(トレイルランニングやトライアスロンなど)
- ・ コロナ禍を経てサイクリング大会の参加者が大幅に減少した一方で、マラソンの参加者はコロナ禍前に戻りつつある。原因としては、バイクの高騰によって新たな若者の参入者が少ないため、サイクリング大会の参加者は伸びないのではないか。それに対してマラソンは、準備物が少なく、敷居が低いことから人数がコロナ禍前に戻りつつあるのではないかと。
- ・ フィットネスクラブは高齢者の利用が多く、社交の場となっている一方で、スポーツジムは若者の利用が多く、トレーニングをすることを目的にジムを利用している。
- ・ フィットネスクラブはコロナ禍により利用者が半分程度になり、いまだ回復していません。利用者回復のためにはスポーツの楽しさを打ち出すことが必要である。
- ・ インストラクターとして教室に参加してもらえれば楽しいと思ってもらえる自信がある。楽しいと思ってもらえれば継続してもらおうこともできるだろうから、まずは場所の用意と告知をしていただきたい。

- ・ 最近の未就学児の傾向として、転びやすい、走りが不安定、体幹が弱い、投げる力が弱い、ひねる・握る等の動きがぎこちないなど感じており、日常生活で雑巾がけや水道の蛇口の使用、トイレのためにしゃがむといった動作の経験が少なくなったことが原因ではないか。園の生活の中で経験できるようにあえてひねる蛇口を設けている。
- ・ 幼保園、こども園では、楽しく体を動かすことを目的として、かけっこやボール遊び、ダンス、まつえっこ体操など日常生活の中で体を使った遊びの時間を設け、十分に体を動かす活動を行っている。
- ・ 幼保園、こども園において、外部講師によるスポーツ体験・指導があるとよい。活動中のこどものけがについては、園側で保険をかけているため、外部講師には気兼ねなく指導していただけるのではないかなと思う。
- ・ 親がやっていたスポーツをこどもにもやらせる傾向があり、午睡の時間を利用して4・5歳児の希望者には、習い事に参加する機会を設けている。また、園とは別に、体操やダンス、サッカー、バスケットボールなどの習い事に通っているこどももいる。